

Costume and Textile

No. 5

服飾文化学会会報

2003年3月



研究例会 櫛かんざし美術館にて

卒業論文・修士論文発表会の報告

平成15年3月8日、平成14年度の卒業論文・修士論文発表会が開催された。今年も石井とめ子副会長のご尽力により、大妻女子大学を会場として盛大に開催された。会は13時より、石山彰会長の挨拶に始まり、卒業論文7編、修士論文2編の発表があった。

以下に、紙面の都合により修士論文に限って概要を紹介する。

1) クリストファー・ドレッサーから見た近代デザインの基礎的考察

共立女子大学家政学研究科 小林 彩子
19世紀、英国のデザイナー・クリストファー・ドレッサーは、近年ジャポニスム、モダン・デザ

インの先駆者として評価されている。彼のデザイン理論は彼の言葉“知は力なり”というように、歴史的装飾・技術・他国の装飾様式・植物学の知識と“真実・美・力”を前提とし、更に新しい装飾・デザインと独自の理論体系の創造をした。これは様々な要素を重層的・複合的に表現した彼のデザインに現れている。日本には、英国からの寄贈品を運び、博物館・博覧会事業に関わり、明治期の殖産興業の発展に寄与したが、彼のデザインにも日本の美術・工芸の影響が認められている。彼は工業の発展に伴う生産の商業化と機械を用いての原理とデザインを生み出し、機能主義的、実用的製品を生んだ20世紀デザインの先駆者である。

2) 朝鮮通信使の服飾に関する一考察

—1607～1811年を中心に—

日本女子大学家政学研究所 鄭 銀志

江戸時代の朝鮮通信使は、日朝両国の平和維持の絆として、政治外交を超えた文化メッセンジャーであった。これを服飾面から捉え、服飾の実態と日本の服飾との関わりを探って両国の服飾文化の理解を深めることを目的とした。実物資料がほとんど無いので、絵巻から19種、文献資料から16種を取り上げ、年度・職分別に比較考察した。絵巻に見る朝鮮通信士の服装は、1600年代は南蛮風・中国風・朝鮮風・日本風の融合・折衷を経て、1710年代末に朝鮮の服飾に忠実に描かれはじめ、1810年代になって、朝鮮中期のものと同じに描写されている事が明らかになった。さらに、文献資料にはその詳細が記されており、日本文化を認識した上で、誠真の交わりの証として服飾が扱われ、様々な用意を整えた事を明らかにした。

何れも図版等も豊富に説得力のある、力溢れる発表で、将来を嘱望される研究だった。

終了後はアトリウムで懇親会が開かれ、指導や歓談の時がもたれた。(和洋女子大学 鷹司綸子)

《プログラム》

13:00-13:05 開会の挨拶

服飾文化学会会長 石山 彰

卒業論文

(座長 小笠原 小枝)

昆虫をモチーフとしたデザイン

清水 有樹 (文化女子大学)

染織におけるジャポニスム — 日本染織の受容とその意味 —

川末恵理香 (共立女子大学)

(座長 石井とめ子)

和への関心・アンティーク着物

八木 幸枝 (文化女子大学)

平戸・松浦家所蔵陣羽織に関する調査

薬師寺 緑 (和洋女子大学)

(座長 伊藤 紀之)

今和次郎の服装研究 分部 清香 (杉野服飾大学)

Le Charivari 誌にみるパリの服飾 — クリノリンを中心に —

稲子 美央 (日本女子大学)

(座長 飯塚 弘子)

イヴ・サンローランのデザイン表現 — サファリ・ルックと民族衣装 —

國谷 香佳 (大妻女子大学)

修士論文

(座長 塚田 耕一)

クリストファー・ドレッサーからみた近代デザインの基礎的考察

小林 彩子 (共立女子大学家政学研究所)

(座長 佐藤 泰子)

朝鮮通信使の服飾に関する一考察 — 1607～1811年を中心に —

鄭 銀志 (日本女子大学家政学研究所)

懇親会 閉会后・大妻女子大学 アトリウム (参加費無料)

研究例会の報告

日時 平成15年2月28日(金)

午後1時30分～4時

場所 櫛かんざし美術館

東京都青梅市柚木町3-7-1

Tel 0428-77-7051/Fax 7052

講師 橋本澄子先生

(櫛かんざし美術館顧問)

〈研究例会に参加して〉

東京文化財研究所 須藤良子

櫛かんざし美術館は、奥多摩の豊かな自然の中にあり、美術館の敷地内にも溪谷庭園がある。今回の参加者は、会員17名、学生他5名の総勢22名

であった。

美術館の収蔵品は、岡崎智子氏のコレクションを基に構成されている。内容は江戸期から昭和にいたる櫛とかんざし・笄を中心に、かつら・笄迫・姫印籠・矢立などの工芸品およそ4000点に及ぶ。当日は美術館の展示を観覧した後、櫛かんざし美術館の顧問である橋本澄子先生に講義をしていただいた。

1階には、江戸期の櫛・かんざし・笄・姫印籠・女性用煙草入れなどが展示してある。現在では貴重になった鼈甲や象牙の櫛・笄・かんざしなどが多く見られた。また若い女性が身につけた「びらびら簪」などは、かわいらしい赤珊瑚をふんだん

に使用して装飾してあり、華やかな雰囲気を現在に伝えている。さらに「結髪の雛形」も併せて展示してあるので、時代とともに髪型が変化していく様子や、櫛やかんざしをどのようにつけるのか、などといったことが分かる。また、女性が身につけていた印籠や煙草入れなども展示してあるので、江戸期の女性風俗が知られるとともに、当時の工芸技術の高さを実感できる。地下には明治から昭和までの櫛やかんざし類が展示されていた。明治に入ると髪型もこぢんまりと変化し、束髪が登場、それに伴い櫛やかんざし類の装飾も小ぶりなものへ変わっていく様子がよく分かる。

橋本澄子先生のご専門は結髪に関する研究で、長く東京国立博物館に勤務され、染織室長もされておられた。

壇輪の人物像にも飾り用の櫛が見られというお話では、古くから、われわれが櫛を使って飾っていたことが分かる。そして櫛やかんざしの装飾性が時とともに増していき、江戸中期にはかなり凝ったデザインのもので出てきたことが分かった。

鬘甲が高価であったために類似品として、牛や馬の爪を使い、より鬘甲に似せるため、斑をつけたりと工夫が凝らされていたという。また、鬘甲に蒔絵を施した櫛の類似品として、蒔絵部分に薄い金の板に細かい模様を透かし彫りのように細工した「金芝」を牛や馬の爪を櫛型にしたものに貼ったそうである。珍しい資料も見せていただいた。その1つは鶴の頸骨に蒔絵が施されている筈で、実際に手にとると、とても軽く、大変貴重なものであったことが分かる。

結髪の変遷や、結い方なども分かりやすくお話くださった。浮世絵に描かれる女性の髪形は決して誇張して描かれているのではなく、鈴木春信の描く女性の軽やかに跳ね上がっている結髪型などは「たぼ刺し」という錨型の紙で作られたものを一緒に結い上げて形を作り、喜多川歌麿の描く女性は、髪が大きく横に張り出し「すだれ」のように透けて見える結髪型をしているが、これも「びんはり」という銅線の針金、または鯨の髭に黒い



紙を巻いた道具を使って、美しい形に結っていたそうである。先生もそれらの道具を作られたそうで、その道具類も見せていただき、橋本先生の探究心の深さを垣間見ることができた。

先生のお話の中で、中国や西洋には髪を編んで結うという行為があるが、日本の歴史上、西洋諸国の影響を受ける明治時代以前までは、この髪を編むという行為が一切なされていないというお話は印象的であった。日本では、髪は常に結わえて畳むという方法で形が作られたそうである。館内に設置されているビデオで「日本髪のできるまで」を見ることができるが、これを見ると確かに、結って畳んでいる。そして畳んで形にするという行為に、どこか日本らしい感性を感じた。

江戸時代には、結髪型でその女性が未婚であるのか、既婚者なのか、男性も含めて、階級はどこに属しているのか、または職業は何であるのかなどが分かったそうである。また結髪型だけではなく、帯の結びようから、鼻緒に至るまで、その人の装飾すべてからその人がどのような人なのか分かったそうである。そして、このような結髪型や着装なども、時代の変化や社会情勢に応じて変化を遂げてきたのである。

今回見学した美術館は、櫛とかんざしの美術館であるが、それらは単体で存在しているのではなく常に人にかかわる装飾と、またその人自信とつながっていることを実感した。そして服飾が、文化や社会と密接に繋がっていることを、あらためて実感することができる研究会であった。

本学会および学会誌の指定に関して

副会長 石井 とめ子

下記の2件の指定についてお知らせします。

1. 日本学術会議の広報協力学術団体への指定

昨年6月、日本学術会議の登録申請に関する手続きの確認のために、庶務担当理事の永井房子先生と東京乃木坂にある事務所を訪れた。その際、申請受付の時期には少し間があるが、広報協力学術団体の指定については、学会が一定の条件を充足していれば即時申請可能との説明を受け、早速、服飾文化学会の学会誌・会員名簿・活動状況資料などを提出してきた。その結果、本学会は、平成14年11月29日付にて、日本学術会議会長 吉川弘之氏より広報協力学術団体指定通知（総日庶第498号）を受理した。これにより、日本学術会議から提供される事務局の動向や国内外の関連情報を本学会の学術発展に役立てていきたいと考えている。

事務局から郵送された主な資料を、以下に掲載する。

〈日本学術会議とは〉

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立ち、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業、及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月に内閣総理大臣の所轄の下に「特別の機関」として設立され、中央省庁再編に伴い、総務省に置かれることになりました。

日本学術会議は、全国約73万人の科学者の代表として選出された210名の会員(任期は3年)により組織され、独立して、① 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること、② 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させることを職務とし、活動しています。

また、政府からの諮問に応じて答申し、または、進んで政府に対して勧告する権限をもっています。

さらに、国際的な活動として、国際学術団体への加入、世界各地で開催される学術上重要な国際



会議への代表派遣，二国間の学術交流のための代表団の派遣及び我が国において開催される重要な学術関係国際会議の共同主催，後援などを行っています。

〈日本学術会議の構成〉

会員 210人

第1部(定員31人) 文学，哲学，教育学・心理学・社会学，史学

第2部(定員26人) 法律学，政治学

第3部(定員26人) 経済学，商学・経営学

第4部(定員31人) 理学

第5部(定員33人) 工学

第6部(定員31人) 農学

第7部(定員33人) 医学，歯学，薬学

研究連絡委員会 180(2,370人)

登録学術研究団体 1,356(730,000人)

18世紀から20世紀の代表的な衣装15点からなる現物服飾史年表

「ファッション・プレート 煌きの時代展

—パリのモード版画—」

4/1(火)～4/22(火)，5/22(木)～7月

当館が所蔵する約1200点ものファッションプレートの中から260点を展示

「ART FASHION 20世紀のモード史を綴るファッション・イラスト展」

4/24(木)～5/18(日)

20世紀初頭から現在までの100年にわたるファッション・イラスト131点を一同に展示。今回のコレクションはドイツのフォルカー&イングリッド・ツァーム夫妻の所蔵品で、過去にルーブル美術館，シカゴ歴史博物館などで展覧会を開催し，各界から称賛を浴びている。

(京都女子大学 常見美紀子)

2. 学術刊物への指定

学会誌「Costume and Textile」は，平成15年1月20日付にて郵便法(昭和22年法律第165号)第26条第1項第5号に掲げる学術刊物に指定された。これによって，学会誌は，今後，郵便料が減額され開封郵送となる。

*****会員からのおたより*****

神戸ファッション美術館ご案内

「ナポレオン戴冠式衣装のレプリカ」

4/1(火)～7月

文化学園服飾博物館の移転と特別展のお知らせ

文化学園服飾博物館は，学園新校舎の駅寄りに並列して建設されました新宿文化クイントビルの1・2階に移転しました。学園創立80周年および新博物館開館記念展が下記のとおり開催されています。

「三井家の着物—江戸・明治・大正」

3/29(土)～5/16(金)

10:00～16:30 日曜・祝日は休館

TEL 03-3299-2387

(文化女子大学 佐藤泰子)



平成15年度総会・大会のお知らせ

期日 平成15年5月31日(土)・6月1日(日)

会場 東京家政学院短期大学

東京都千代田区三番町22番地

16:00～17:00 特別講演

「情景としてのインドネシア染織」

染織作家 渡辺 万知子 氏

17:00～17:30 総会

18:00～19:30 懇親会

(私学会館アルカディア)

《プログラム》

5月31日(土)

13:00～ 受付

14:00～15:30 研究発表

6月1日(日)

8:30～ 受付

9:00～11:00 研究発表

11:00～ 昼食

13:00~15:30 見学会

・見学先

東京国立博物館 保存修復課
同館 東洋館インド・南東アジア室ほか

・講演

東京国立博物館 教育普及課
教育サービス室長 西川 暢一 氏
同館 保存修復課長 神庭 信幸 氏

☆購読会員

実践女子大学図書館
嵯山女子学園図書館
横浜美術短期大学図書館
東京家政学院短期大学図書館
相模女子大学附属図書館
大手前女子短期大学伊丹図書館

★会費納入のお願い

平成15年度の服飾文化学会会費6,000円を5月中に同封の振込用紙にてお振込み下さい。過年度未納の方もよろしくお願ひ致します。会費に関するお問い合わせは下記にお願ひ致します。

〒102-8357 東京都千代田区三番町12

大妻女子大学第三意匠学研究室

服飾文化学会事務局

TEL・FAX 03-5275-6029

第4回夏期セミナーのご案内

期日 平成15年8月5日(火)~7日(木)

行先 秋田・角館

《スケジュール》

8/5 12:00 秋田駅集合予定
講演と展示解説(秋田県立博物館)

18:30 懇親会

8/6 午前・午後とも民俗学分野の講演会
(秋田経済法科大学)

夕食後,山王通りにて,東北三大祭のひとつ,
竿灯見学

8/7 貸切バスにて角館市内見学
15:00 角館駅にて解散予定

宿泊先 ホテルハワイ新本店
(秋田市中通り5-1-7 Tel 018-833-1110)

★スケジュールの詳細は,後日ご通知いたします。
お誘い合わせのうえ,多数ご参加下さい。
(夏期セミナー担当 蔵方宏昌)

*****編集後記*****

桜だよりの季節となりました。会報第5号をお届けいたします。本号には,昨秋から今春までの活動報告を掲載いたしました。また,15年度総会・大会,および夏季セミナーのご案内もしています。

事務局のご尽力で,当学会が日本学術会議の広報協力学術団体の指定を受けたことを機に,さらなる発展のために会員の活発な研究活動が期待されます。会報がその一助となりますように,服飾文化に関連する情報・感想・意見などを事務局までお寄せ下さい。(会報編集担当 常見)